



Go West!

佐賀県立唐津西高等学校

学校だより NO.19 R5.2.1

【建学の精神】朝（あした）に希望 タペに感謝

文責 学校長 下村 昌弘

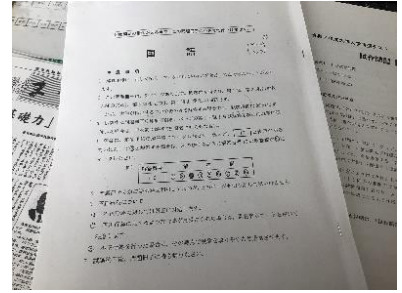
E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp

入試はメッセージである

大学入試共通テストが終わった。国語の第1問は、^{まさおかしき}正岡子規の書齋にあったガラス障子と建築家ル・コルビュジエの建築物における窓について考察した文章だった。

乱暴なまとめかもしれないが、その内容は、「窓」は外界を見るための装置であり、その窓を作り出す「壁」は、人間の意識を内側へと誘い、^{いざな}瞑想の場を生むというものだった。

この「窓」という存在をとおして、「外を見る視点」と「内を見る視点」の両方から人間の意識を捉え直し、これから大学人として学びを深めていく若者に対して“物事を考える際には、一方向からだけではなく、別の視点からの考察も必要なのだ”という受験生へエールだと感じた。



そもそも、この「窓」、どこにしつらえるかによって、見え方（見える風景）も違ってくるし、同じ「窓」でも見る者の価値観によってそこからの見え方（質）も変わってくるだろう。

他方、人間の内面に向かう意識（^{ないせい}内省）にしても、深く沈潜する思考は、^{ちんせん}喩えば水中にボールを沈めて手を離すと水面に向かって弾けるように、^た深ければ深いほど広がる世界は大きい。

「窓」と「壁」。「外へ向かう意識」と「内へ向かう意識」。これは現実意識と現実認識と言ってもいい。心のベクトルが外へ向かうか、内へ向かうか。大人になるということは、このベクトルの大きさを示しているような気がする。

では、このベクトルを大きくするにはどうしたらいいのだろうか。

それは「考える」ことを厭わないことだと思う。しかし「考える」ことはなかなか勇気がいることだ。なぜならそれは、今の自分を否定する要素を含んでいるからだ。考えなければ、何の判断もいらない。何の判断もなければ、自分が傷つくことはない。

しかし、それでは思考停止であり、人間的成長の妨げとなる。特に若者は今の自分に安住せず、新しい自分を生み出す勇気を持たなければならない。今回のテストでそんなことを考えた。

さて、入試問題には、その学校からのメッセージがある。特に3年生はこの時期、過去問に取り組んでいる真っ最中だろう。自分が受ける学校の問題に心底惚れ込めたら、間違いなく合格できる。しっかりそのメッセージを掘り当てて欲しい。そう感じる事ができれば、もはや入試のレベルを越えた学びの喜びがそこにある。だからこそ受験勉強は楽しい。

SAGA2024 国スポに向けて —イメージソング発表—

1月16日、県はSAGA2024国スポ・全障スポに掛ける想いやメッセージを届けるためのイメージソングが完成したと発表した。タイトルは「Batons～キミの夢が叶う時～」。

歌詞は^{ミツル}326、作曲は^{ちわたひでのり}千綿偉功、歌は^{わしおれいな}鷺尾伶菜。全て佐賀県出身の方。特に鷺尾さんは唐津市

出身。歌詞も楽調も声の質感も全てすがすがしく、希望の持てるものだと感じた。



これからいろんなところで耳にするだろう。ぜひ一度聞いてみて欲しい。

【SAGA2024 イメージソング HP】 URL: <https://saga2024.com/imagesong/>

探究は深掘りだ！ -1年はSDGs・2年は志望理由 をそれぞれ深める-

1月24日、1年生は、11月から深掘りしてきたSDGsをテーマとしてきた解決策について、



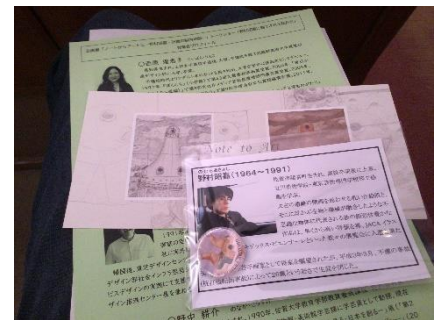
各クラスの代表グループが発表した。「アフリカに医療サービスを届ける手立て」「児童婚や性暴力により権利が侵害されている女性をなくすには」など世界に目を向けたものから、「若者の唐津離れを食い止める魅力発見」「唐津の海岸にあるマイクロプラスチックゴミの回収方法」など地域の問題に取り組んだものまで、自分たちがどうにかしなければという熱い思いを発信した。

10年に一度と言われる大寒波の中ではあったが、一人一人の熱量が伝わってきた。キャリアコンサルタントの早川加恵氏からは、課題設定のあり方や相手に伝わるプレゼンテーションの方法などのアドバイスをいただいた。今後は新聞で報道される様々な社会問題をテーマに意見形成を行う活動に取り組む。(写真は1年生のグループ発表風景)

2年生は、来年度の出願本番を想定し、自分の志望理由をどう深めていくか、ワークショップを行った。単にこれまで経験した内容や経歴を示すだけでなく、その背景にどういう思いや考えを込めているのか、その思いを説明しなければならないことを体験的に学んだ。

君は野村昭嘉を知っているか -天逝の画家を顕彰するアート展(2月5日まで)-

今、県立美術館で、企画展「ノートからアートに-野村昭嘉・26歳の脳内地図-」が開催されている。野村昭嘉は、佐賀に生まれ、東京で絵を学び、将来を嘱望された画家だったが、26歳の時、不慮の事故に巻き込まれ命を落とした。



彼の画は、遺跡の壁画のような乾いた絵肌、そこに浮かぶ不思議な物体など、創造性豊かな作品で、一目見たら忘れられないインパクトを与えてくれる。

今回の展覧会では、直筆の「制作ノート」も併せて展示され、そこには、作品の下描きや構想スケッチに混じって、彼の創作活動に対する思いや美を追求する決意が彼自身の言葉で綴られていて胸に迫るものがあつた。ノートのあるページには一面「チクショウ、チクショウ…」と埋め尽くされていて、切ない。

22日に開催されたトークショーでは、漫画家の西原恵理子氏も登壇し、立川美術学院で同級生として過ごした若き青春の日々を語ってくれた。私もその会を傍聴し、その若さで将来を絶たれた無念さを感じながらも、彼の創造と思索の過程が今や永遠のものになったことに

感動を覚えた。「ノート」とはもともと「気づく」という意味だ。みんなも自分の言葉で、自らの気づきをノートに書き留めて欲しい。それは青春の軌跡だから。

【2月前半の主な行事】

- 2月 4日(土) チャレンジセミナー(2年)
共通テスト体験(1年)
- 8日(水) 高校入試(特別選抜)のため自宅学習
- 10日(金) 3年最終登校日
- 14日(火) 高校入試合格発表